

岩手大学と立教大学の合同授業を、8月25日(月)から29日(金)までの4泊5日で実施しました。お互いの大学で正規の単位が取得できる合同授業として、初めての実施になります。

その内容は、住民ニーズを把握するために学生たちが地域に入り込み、住民の皆さんと交流する中から生活状況を伺い、ニーズを把握し、学生として、または大学として何ができるかを考えるというもの。市社会福祉協議会の全面協力のもと、両大学の学生19人が参加し、4つのグループに分かれ、それぞれに教員が付いて一緒に地区に入り込むという方法です。8月末にも関わらず暑い日が続きましたが、それでも夕方になると涼しい風が吹き、クーラーの要らない生活を実感することができました。

小友地区コミュニティ推進協議会のご協力をいただき、小友町内の4つの地区において、その地区での学び、地区の皆さんとの交流、地区を歩いてのニーズ把握、それぞれのお宅や自治会館での実際の生活の様子を踏まえた話し合いなど、5日間の中で多くの時間を過ごして学びを深めました。



小友町内を歩く学生たち

畑仕事の手を止めて急に来た学生の質問に答えてくださる方、自宅に招き入れて話をしてくださる方など、多くの皆さんが学生との交流を楽しみながら生活状況について語ってくださいました。

都会では考えられないような人間関係が密な生活、生活の中に自然に溶け込み習慣にもなっている「オシラサマ」「神様あそばせ」「八日行」など興味深いお話も多く、数時間があっという間に過ぎていきました。

最終日にはお世話になった小友町の皆さんや市社会福祉協議会の皆さんをお招きして、各班20分ずつの発表を行いました。単にヒアリング内容や観察したことの報告に留まらず、自分たちにできることはないかを考え、具体的な行動を提案する場となりました。



「立教大学・陸前高田サテライト」にて学ぶ両大学の学生

まったくのよそ者である学生たちがまちを訪れ、住民の皆さんとお祭りや行事、日常生活の中で交流することが、実は住民の皆さん同士が語り合う機会を創出するのかもしれない。住民が減少したり、他地区からの転入者が増え繋がりが薄れている地区に、少しでもあっても繋がりを生み出すことができるのではないかと気付きました。今後、陸前高田を訪れる機会を設けて新しい出会いを継続したいという思いも発表してくれました。

立教大学・陸前高田サテライトでは、学生が陸前高田に通い続けられるように、交通費と宿泊費の補助を行っています。この補助を得て、学生たちが引き続き陸前高田を訪ねるよう働きかけていきたいと思います。ぜひ学生をまちなかで見かけましたら、ぜひお声がけください。

本市は、令和元年(2019年)7月に「SDGs未来都市」に県内で初めて選定されました。「その先の笑顔のため、いまできること」編では、本市でSDGsの達成に向け積極的に取り組んでいる人・団体、関連イベントなどを紹介しています。

SDGs GOAL 10 人や国の不平等をなくそう

SDGs GOAL 11 住み続けられるまちづくりを

SDGs GOAL 16 平和と公正をすべての人に

SDGs GOAL 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

お店の名前は“ハッピーになろう”という思いから付けました。

お客さまがカフェを利用して“ハッピー”になってもらえるように心を込めておもてなしをしています。

普段の仕事の内容を教えてください

障がいのある人が、自立した日常生活または社会生活を送れるよう、就労の機会を提供するほか、明るい接客を通して、利用した人がゆっくりできるおもてなしをしています。



スタッフの皆さん

SDGsに関する主な取組内容を教えてください

カフェのスタッフを務めるあすなるホームの利用者が、地元食材の「北限のゆず」を使用したフロマージュやサイダー、パスタなどの盛り付けや配膳を行っています。その他にも、店内のポップやカレンダーも作っています。

これからの陸前高田市をどんなまちにしていきたいですか

各業界で人材不足の昨今、障がいのある人でも仕事の内容によっては早く丁寧に仕事ができることを知ってもらい、多様な人が長所を生かして活躍できるということを知ってほしいです。そうして、さまざまな人が活躍することで人材不足の解消につながればと思っています。

自慢のスイーツとスタッフの“笑顔”で、みなさんのご来店をお待ちしています

場 所：まちの縁側（高田町字並杉300番地2）

営業時間：午前10時～午後3時30分

定休日：不定休

メニュー：地元食材を使ったスイーツ、軽食、ソフトドリンク、コーヒーなど



お客さまへ軽食を提供の様子



ゆずフロマージュとコーヒーのセット

毎月の営業日はあすなるホームのFacebookをご確認ください

